



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

新生児科

新生児蘇生法講習会

心肺蘇生法には一次救命処置であるBLS、二次救命処置であるALS、小児二次救命処置であるPALSなどがあり、同様に出生したばかりの新生児を対象に新生児蘇生法NCPRがあります。最も大きな違いは、成人では心原性が主であるため胸骨圧迫が優先されますが、新生児では呼吸原性であるため人工呼吸が優先されるという点です。人生最初の試練である生まれた瞬間から元気に泣くということ、これができないと人は生存できません。ですので、生まれたときに泣いていない児には例え心拍数が0であっても人工呼吸が先になされるということになります。



当院では2008年から大分県内の医師、看護師、助産師、看護学生、救命士などを対象に新生児蘇生法の講習会を開催してきました。今までに延べ1,400人ほどが参加し、次回で100回目になります。出生数の減少でより一人一人の新生児をしっかりと救命していくためには多くの人にこの蘇生法を習熟していただく必要があり、これからも開催を続けていきたいと思えます。

(新生児科 統括部長 飯田 浩一)



※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)

脳梗塞は突然発症する恐ろしい病気です。脳梗塞にもたくさんの種類がありますが、脳血管が血栓(血液のかたまり)で突然閉塞する塞栓性脳梗塞(脳塞栓)は、急性期の適切な診断・治療により血流の再開、脳梗塞の最小化を図ることができ、場合によっては症状なく退院できます。診断治療が遅れると脳梗塞の範囲が大きくなり、麻痺・失語・意識障害などの症状が治らないことがあり、時には命を落とす方もいらっしゃいます。

発症から4.5時間以内であれば血栓溶解薬の投与で血栓を溶かす方法が採られますが、適応の基準があり、発症4.5時間以内であっても投与できない患者さんもいます。また近年では、血栓溶解薬の投与の有無に関わらずカテーテルによる脳血管内治療(血行再建術)を行うことで血流の早期再開通を得ることもでき、治療成績が向上しています。県立病院でも脳血管内治療専門医が所属しており、いつでも対応しています。

図1

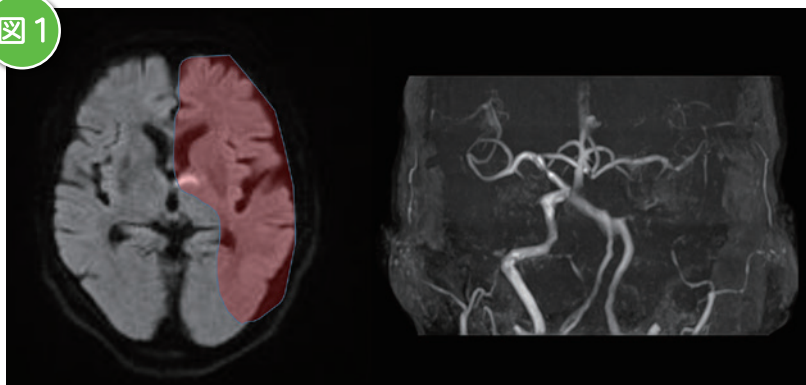


図2

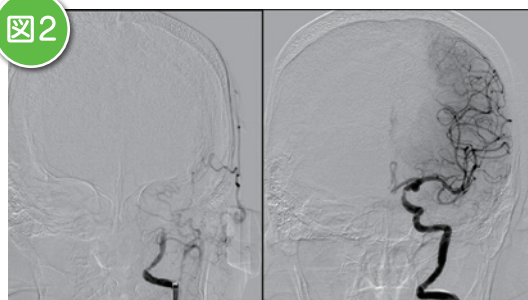


図3

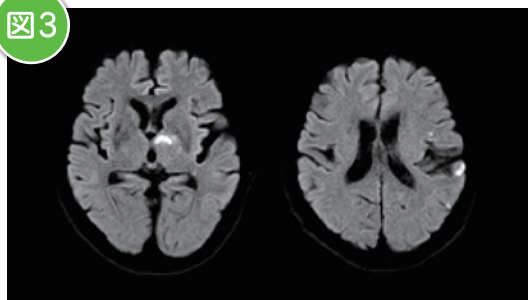


図1は、突然の右麻痺、失語、意識障害が生じ、救急車で来院された60歳代の方のMRI画像で、左写真中央の白い部分がすでに脳梗塞となった部分です。赤い範囲が脳梗塞の予想される最大の範囲です。左内頸動脈が閉塞していましたが、幸い急性期に血行再建を行い血流の完全再開通(図2)が得られ、脳梗塞の拡大はわずかで(図3)、麻痺も改善し、自立歩行可能にてリハビリ病院へ転院することができました。

ご高齢の患者さんは麻痺・失語・しびれなどの異常を感じてもしばらく様子を見て、時間が経過してから来院される方が多く、手遅れとなるケースも多いのが実情です。突然の症状は我慢せずにすぐに救急車を呼んでください。

(放射線科 副部長 柏木 淳之)



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら